保健室便り

帰国後の感染症発症に注意！

No.97　2019年9月3日

海外では、日本には無い病気や、珍しい病気があり、感染していてもすぐには症状がでず、帰国してから発熱などの症状が現れることがあります。具合が悪いからと病院を受診しても、医師は外国で感染した病気には思いが至らず、迅速に適切な治療を受けられない場合があります。

海外旅行から戻った後2ヶ月程度は、体調に異常があれば、**どの国へ行って、どのような事をしてきたか、必ず医師に告げた上で受診をしてください。**

麻しんや風しんの患者は、海外で感染して帰国後発症する「輸入例」の割合が増加しています。

麻しん・風しんのワクチンを2回接種していない人、麻しん・風しんに感染した経験がない人は、国内での感染にも注意が必要です。

➢　次のような症状があれば医療機関に相談しましょう。

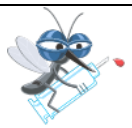
□ 身体のどこかのリンパ腺が腫れる。
□ 発熱、倦怠感、頭痛などの症状がある。
□ 下痢が続く。
□ 皮膚にできものや発疹が出た。
□ 急にやせてきた。

➢　厚生労働省検疫所より2019年8月、9月に公表されている感染症新着情報の主なものは、以下の通りです。＊情報は随時更新されます以下のホームページでご確認ください。

厚生労働省検疫所：http://www.forth.go.jp/index.html

地域・国	病　　名
西太平洋地域 カンボジア・中国・ラオス・マレーシア・フィリピン・ベトナム シンガポール・オーストラリア・ニューカレドニア・フランス領 ポリネシア	デング熱
コンゴ民主共和国	エボラウイルス病

デング熱



感染経路：ウイルスを持っているネッタイシマカ、ヒトスジシマカなどのカに刺されることで感染する。

潜伏期間：2～14日（通常3～7日）

症　　状：潜伏期間のあと、およそ2～4割の人に突然の発熱（38度以上）で発症し、激しい頭痛、関節痛、筋肉痛の症状に引き続き解熱とともに発疹が現れます。

治　　療：血小板が減少し、出血を起こしやすくなるので、通常使用される鎮痛・解熱剤は使用できない。小児に使用するアセトアミノフェンが使用可能、根治薬はなく対症療法のみです。

予　　防：ワクチンや予防薬はありません。流行地域では、蚊に刺されないよう防虫や、肌の露出に注意することが重要です。また、感染していても症状が現れない人も多いので流行地域から帰国した人は蚊に刺されないよう注意が必要です。

９月24日より、毎週火曜日学医の診察、相談を受けることが出来ます。費用は無料です。
体調に不安がある、わからない事があればいつでも保健室へご相談ください。

桃山学院大学　学生支援課　保健室